

## 電気通信大学 平成20年度シラバス

授業科目名	大学院インターンシップ		
英文授業科目名	Advanced Internship		
開講年度	2008年度	開講年次	
開講学期	前学期	開講コース・課程	博士前期課程
授業の方法	演習	単位数	2
科目区分	電気通信学研究科-電子工学専攻-専門科目		
開講学科・専攻	電子工学専攻		
担当教官名	一色 秀夫		
居室	西2-517		

公開E-Mail	授業関連Webページ
hisshiki@ee.uec.ac.jp	<a href="http://www.crc.uec.ac.jp/japanese/intern2.htm">http://www.crc.uec.ac.jp/japanese/intern2.htm</a>

<b>【主題および達成目標】</b>
<p>電気通信大学では、学生の就業体験である「インターンシップ」を「教育における産学連携」と位置づけ積極的に勧めている。大学院インターンシップは科学技術教育の一環として大学が産業界の協力を得て行う就業体験であり、次の趣旨をもって行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究・技術開発及び生産の現場に関心を深め創造性、自主性を備えた人材の育成</li> <li>2. 研究・技術開発を通じ、研究技術開発と経済性や作業と安全は一体不可分を体得</li> <li>3. 研究・技術開発の実際問題に直面させ、その問題解決を図る技能の育成</li> <li>4. 将来、研究者・技術者として活動するときの心構え、目的意識の涵養</li> <li>5. 企業等の就業体験を通じて、科学技術教育の意義と重要性の理解</li> <li>6. 自己の将来設計について考える場を与え自主的な職業選択や高い職業意識の涵養</li> </ol>

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
なし

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
なし

<b>【教科書等】</b>
なし

## 電気通信大学 平成20年度シラバス

### 【授業内容とその進め方】

大学院インターンシップは、1.事前教育・学習、2.就業研修および3.事後教育・学習で構成される。事前、事後教育は随時行うこととする。

#### 1.事前教育・学習

インターンシップの意義、自らの希望する業界、企業について研究、学習をすること。これをもとに担当教員、指導教員および共同研究センターが連携して研修先企業を選定する。（公募についてはこの限りではない）また、事前の研修および研修希望先との事務手続き等もこの一環とする。ビジネスマナー等の教育は共同研究センターで随時行う。

#### 2.就業研修

期間は原則夏季休暇期間中とし、研修中は研修先の諸規定、監督者、指導者等に従う。研修終了時、企業・団体の研修指導者が記入、発行する「修了書」を以って就業研修が認定される。

#### 3.事後教育・学習

就業研修終了後、実習内容、感想、反省などの「報告書」を作成し、所定期限内に提出するとともに、担当教員と面談し報告または発表を行なう。

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

就業研修期間は原則夏季休暇期間中とし、単位認定の基準は事前・事後の学習時間を含む研修時間総計90時間以上とする。成績は修了書、報告書および面談のうえ総合的に判断する。

### 【オフィスアワー：授業相談】

随時。ただしメール等で事前に連絡をとること。

### 【学生へのメッセージ】

夏休みの一定期間をインターンシップの履修にあてることは確固たる信念と多くの努力を要する。しかしその経験は努力以上の成果をあなた自身が得るだろうことは多くの先輩が認めている。インターンシップは企業の現場でしか出来ないこと、ことばでは表現できないこと、大学の授業では学べないことなどを肌で感じ体験する自分自身のキャリアアップの場である。その体験を通じてどのような職種が自身に適しているのかを良く理解し、納得し、自分自身を発見する契機、再認識にもつながっている。

### 【その他】

公募については、予め指導教員および担当教員に相談し、決定後は速やかに報告すること。